



DEN

No.20

2017.4.28
発行

作業療法を伝える
NEWS&COMMUNICATION

公益社団法人 大分県作業療法協会 広報誌



心豊かに作業療法

CONTENTS - テーマ:災害リハビリテーション -

- 1 教えて! 作業療法「災害リハビリテーションとは」
- 3 まんが作業療法物語～災害リハビリテーション支援編～
- 8 施設紹介: 医療法人畏敬会 井野辺病院
- 9 作業療法フェスタ
- 10 作業療法一日体験
- 11 第34回 全体研修会
- 12 以心 DEN 心
- 13 活動報告



公益社団法人 大分県作業療法協会

教えて! 作業療法

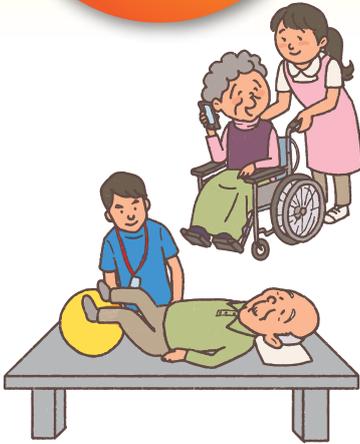
災害リハビリテーションとは

災害発生時に高齢者や障がい者などの災害弱者^{*1}の災害死や障がいの発生、重度化を予防するとともに、失われた生活を取り戻し、自立生活を立て直していくリハビリテーション支援です。

地域リハビリテーションの理念のもと、私たちリハビリテーション関連職種が、本来日常的に行っているリハビリテーション活動を災害時に活用することです。

このような大規模災害時に活動する団体に「大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT:Japan Rehabilitation Assistance Team)」があります。大分県もこの活動に参加するため、平成28年6月4日に「大分JRAT」を設立しました。

※1 災害弱者:災害が発生して身に危険が迫った場合の情報収集や避難行動などにおいて、ハンディキャップを持つ人。自力での避難が困難な人。



JRATの活動

JRATとは、大規模災害に備え、平時はリハビリテーション支援チームの育成・組織化・ネットワークの構築を推進している団体です。大規模災害時には救急救命に継続したリハビリテーションを提供し、生活不活発病等を防ぐことを目的として活動をしています。

廃用症候群

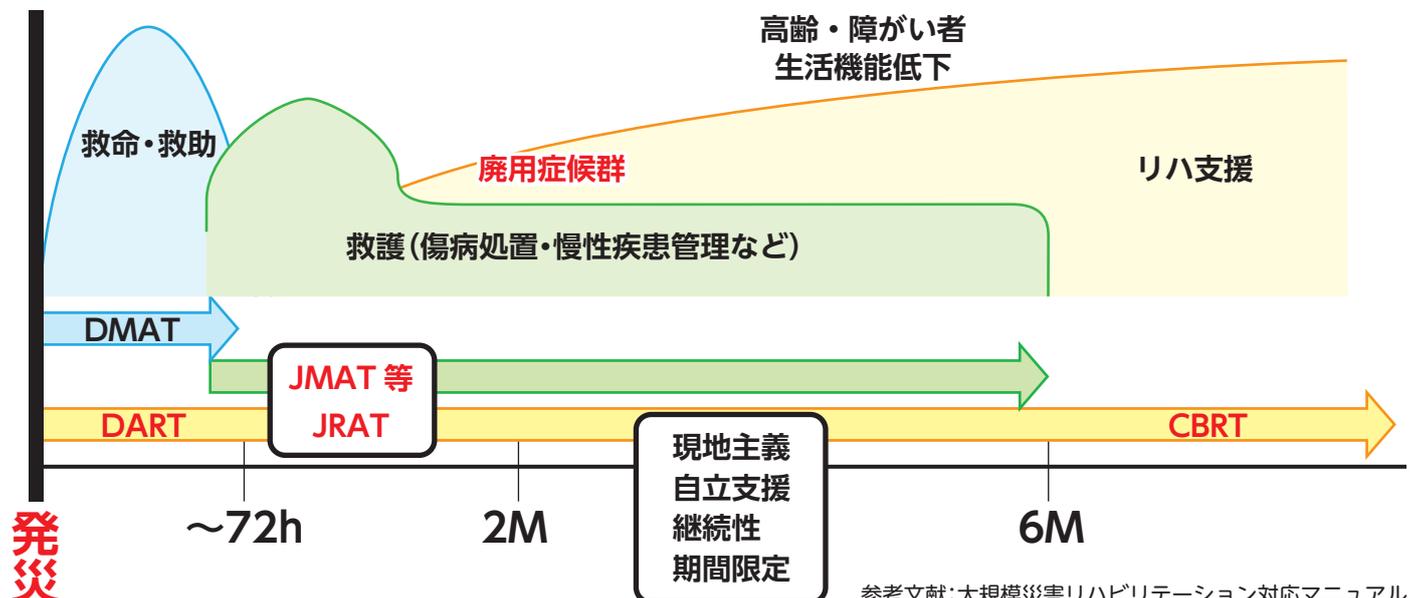
- 痛み等、身体面の確認
- むくみ、エコノミー症候群への予防
- 筋力、体力低下の確認と指導

生活機能

- 移動用具への対応
(杖、車椅子、靴等合っているか)
- セルフケアの確認と指導
(食事、排泄、整容、更衣、睡眠、移動)

リハ支援

- 精神面のケア
- 活動性の向上
 - ▶ 孤立化の予防
 - ▶ 地域住民主体の新たなコミュニティ作り



参考文献:大規模災害リハビリテーション対応マニュアル

作業療法士の現地活動

被災者は、道路や住居等の損壊、避難所生活などによる生活環境の変化により、運動、認知、社会生活などの様々な面で生活機能が低下します。なかでも、災害弱者は重い障害を残すこともあります。

私たち作業療法士は、作業(生活活動)を通じて生活機能の向上と健康増進を図ります。例えば、避難所生活者に対しては、体操による体力づくり、レクリエーションや役割獲得、コミュニティ形成による社会参加の促進、転倒防止のための環境整備等の提案を行います。



災害発生から1週間～6か月ほどの時期、主に避難所での作業療法士としての支援

避難所の環境整備・調整	生活リズム・活動の提供	身体機能低下者の対応	精神・認知機能障がい者の対応
<ul style="list-style-type: none"> ● 初期対応として、避難所が快適な空間となるよう交流の場とプライベート空間の確保。 ● 障がい者や高齢者のための手すりや滑り止め設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単調な避難所生活による不活発予防に、一日のスケジュール表を作成。 ● 小集団の活動提供(散歩体操、役割提供など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ADL評価を素早く行い立ち上がり、寝返り、食事指導、マッサージ指導。 ● 生活に必要な補助具作成提供(段ボールベッド、杖、踏み台、弾性ストッキングなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 統合失調症やうつ病、認知症に障がいがある方へ生活状況の評価を行い不安解消のために継続的な相談支援を行う。 ● 意欲低下・抑うつ傾向者には身体的介入等も行う。

参考文献：一般社団法人 日本作業療法士協会 東日本大震災における災害支援活動報告書



まんが

作業療法物語

～災害リハビリテーション支援編～



大分療子

大分療大



とある日の深夜、それは突然起きました

ガタガタッガタガタッ

わあ地震!
こわい!
どうしよう!

すぐに職場から緊急連絡が入り療子は急いで病院へ向いました

病院では天井が崩落し、配管が壊れ水浸しになっていました



入院患者さんは余震の恐怖により落ち着かず、病院内はパニックの状態でした

それぞれ夜通しで作業が行われました
その間も余震は続き、不安は募る一方でした

助けて

大丈夫
ですからね

発生翌日より院内班と院外班に分かれ、本格的な災害支援を開始しました



療太君は院内班として、入院患者さんのリハビリを継続しながら、通所や訪問でリハを利用している方々の状況確認をお願いします

自宅での生活が難しそうな方は市の担当者に連絡して下さい



わかりました

療子さんは、大分JRATの一員として活動します

これから避難所では、環境の変化や運動不足で体調を崩す人も出てきます
まずは被災者の生活を調査しましょう

※詳しくは教えて作業療法をご覧ください



入院患者へのリハビリ・心のケア

通所、訪問リハ利用者の状況確認

一週間後、病院ではライフラインが復旧し、医療品や食料などの支援物資が確保され、通常通りの業務が行なえるようになりました

療子は、医師や保健師等と連携し、避難所を巡回することになりました
避難場所は小学校の体育館でたくさんの方が避難をしていました



療子は一人一人の状況確認を行い、環境調整を行っていきました



立ち上がりが難しい人⇒滑り止めマットの導入



狭い所での移動が大変な人⇒トイレに近い所へ住居を移動



数日後

お茶会…??

そうね、ここにも何もすることないし、行ってみようかしら

翌日、集会所

みなさん、今日は美味しいお菓子を作って一緒に食べましょう

そして、日ごろの思いを話していきましょう

みなさん、すごく打ち解けているわね

ただ会話をするよりも、一緒に何かの作業をすることで、心の壁をとることができるんです

療子さん、うちの人も何か気晴らしになることができかね

Bさん夫婦は畑仕事をされてたんですね…
………そうだ!!!

学級農園

Bさん、来てくれてありがとうございます

この学校の畑を使って野菜を作ろうと思うんですが、私は素人なので教えてもらえませんか?

…構わんが、まずは土づくりから始めないと

療子は仮設住宅の住民たちに声をかけ、畑仕事を手伝ってくれる人を探しました

学級農園

これで準備はできた

何を作るかはこれからみんなで決めようと思うよ

私は病院の業務に戻りますが、がんばってくださいね



仮設住宅で暮らす人たちの中で、コミュニティが築かれていたことに療子は安心しました

孤立した環境での生活が続くことで、心身に不調をきたすケースは多くあります

様々な作業を使って、人が集まり交流をする場を作ることで、心身の健康を促進していくことは作業療法士の役割として重要です

この漫画は東日本大震災（2011年）、熊本地震（2016年）での作業療法士協会が行った支援をもとに作成しています。避難所での自炊の促しや交流場所の設置、体操の機会、転倒転落防止の環境整備など被災地での作業療法士の活動の一部をご紹介します。震災によって受けた心の傷は完全に癒えることはありませんが、「生活のしやすさ」を支援する作業療法士の関わりが少しでも被災者の方たちの力になればと願っています。

医療法人畏敬会 井野辺病院

所在地：〒870-0862 大分県大分市大字中尾字平255番地
TEL：097-586-5522 FAX：097-586-5656

診療科目：内科、整形外科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、
消化器内科、リハビリテーション科、内分泌・糖尿病内科

対象疾患：脳血管疾患等、運動器疾患、呼吸器疾患、がん疾患

病床数：一般病棟10対1(18床)、地域包括ケア病棟(34床)
回復期リハビリテーション病棟(60床)

リハビリテーションスタッフ

作業療法士(29名)、理学療法士(43名)、言語聴覚士(7名)
臨床心理士(2名)、健康運動指導士等(2名)

関連施設：井野辺病院通所リハビリテーション、通所介護(夢工房)、
訪問リハビリテーションきぼう、訪問看護ステーションひかり
井野辺府内クリニック、介護老人保健施設ふない
いのべ訪問介護ステーション、
特定施設入居者生活介護ウェルヴィラ府内



リハビリスタッフ

施設紹介

当院は、2000年9月に開院した、リハビリテーションを専門に行う病院です。

障害を持たれても、再び社会のなかで、その人らしく安全に安心していきいきとした生活ができるよう、豊かな人材と最新の医療機器と技術で支援し続けています。常に良質なリハビリテーション医療が提供できるよう、学会発表・論文投稿・講演活動等を通じて、技術の向上・証明・発信に努めています。また、質的・量的に充実した体制を整備し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など約80名のスタッフが365日体制でリハビリテーションを提供できるようにしております。地域への寄与にも積極的に取り組んでおり、住み慣れた地域で生き生きとした生活を送ることができるよう、地域リハビリテーション事業の体制整備(中部圏地域リハビリテーション広域支援センター)なども行っています。

災害支援の取り組み

2016年4月16日、熊本地震が発災し甚大な被害が起きました。熊本・大分で多くの方が被災した上、余震が2週間以上続き避難所での生活の長期化が予測されたため、今回、大分JRATチームへ作業療法士を派遣しました。被災直後のリハの役割は、①それまで行ってきたリハ医療を守ること、②避難所などでの廃用症候群を予防すること、③新たに生じた各種の障害に対応すること、④異なった生活環境での機能低下に対する支援をすること、⑤生活機能向上のための対応をすることです。このことを念頭に置き活動しました。実際に現地に行かないと分からないことが多くあり、この経験を今後の災害支援に役立てるよう活動していきます。



大分JRATメンバー



対策本部との打ち合わせ



避難所の様子



活動支援の様子(集団体操)



個別支援の様子(他団体と連携)



記事担当者/岸本 周作





作業療法 フェスタ2016



8月21日(日)、イオンパークプレイス大分店で「作業療法フェスタ2016」を開催しました。参加者の年齢層も幅広く約600名の参加があり、展示パネルや各ブースは大勢で賑わい、会場は“作業療法”一色に染まる休日となりました。



今年の作業療法フェスタのブースでは、パネル展示や卓球バレー、ボッチャの道具を設置しました。またパネル展示内にクイズコーナーを設け、スポーツと家事動作の運動強度の比較やパラリンピックに関連する問題を出题しました。実際にボッチャと卓球バレーの道具に触れた方は「ボーリングと拭き掃除が同じ運動量？驚いた。」「拭き掃除ならいつでもできそう。」「ボッチャ、卓球バレーを初めて聞いた。」「実際に触ってみて、楽しそう、難しそう。」など様々な感想が聞かれました。生活の中での活動量の必要性やユニバーサルスポーツについて見て、触れて、感じてもらうことができました。

また、今年は親子で体験できるブースとして、めじろん元気アップ体操を行いました。初の試みでしたが、参加者の方からは「楽しかった」、「家で祖父母に教えて一緒に踊ってみる」などの声も聞かれました。

作業療法の相談窓口では、多くの質問があり、中でも親の介護に関する相談や子どもの進路相談（作業療法士を目指しているがどうしたらよいか？）など、作業療法士への関心や知識を深める場となりました。



今回のフェスタでは単に楽しい体験だけでなく、解いた問題や体験した内容が、作業療法の場面でどのように治療援助として用いられているのかを解りやすく説明し、作業療法の理解を深めていただけるように努めました。作業療法フェスタでは参加者の方々が実際の作業療法を体験することで、知っていた最大イベントです。多くの方々に参加していただき、県民の方々に作業療法をPRすることができました。



作業療法一日体験

* 高校生が作業療法を体験 *

今年度も7月から8月にかけて、高校生を対象とした「作業療法一日体験」を実施しました。70を超える病院や施設にご協力いただき、これまででもっとも多い205名もの高校生が参加してくれました。作業療法の実際の現場を体験し、作業療法士を目指すきっかけになった人もいないのでしょうか。今後も本事業に一層力を入れ、作業療法の魅力を伝えることで、将来を担う作業療法士の育成に繋げていけるよう努力していきたいと思ひます。



児玉病院にて



南海医療センターにて



南海医療センターにて

高校生の感想(アンケートより)

- 作業療法士は、患者さんが少しでも早く自宅に退院し、退院した後の生活も過ごしやすいようにお手伝いをするとても素敵な仕事だと思いました。患者さんができなかったことができるようになったときの笑顔を見られて感動しました。
- 体験するまであまり知りませんでした。患者さんの笑顔が見られ、人に感謝される仕事でやりがいがあって、私も人の役に立てる仕事に就きたいと思いました。
- 今回の体験を通して、自分の中での作業療法士のイメージがすごく変わりました。将来は人とコミュニケーションを取りながら、患者さんと一緒に成長していける職業に就きたいと思ひます。

受け入れ施設の会員の感想

初めての場所や経験で緊張している高校生もいましたが、患者さんとコミュニケーションをとるうちに慣れてきた様子でした。患者さんと笑顔で話す様子を見て、まずは楽しんでもらうことが大事だと思ひました。

作業療法士がどんな仕事をするのか分からないと話す高校生もいるので、身近な職業に感じてもらう良い機会になると思ひました。

高校生が将来どのような職業に就きたいかという考えを持って参加しており、こちらの説明に対しても真剣に聞く姿勢が印象的でした。積極的に質問をするなど、一日体験に対する意識の高さを感じました。以前より作業療法士の認知度が向上しているように思ひました。

高校生の目線による新鮮な意見を聞いて初心に戻ることができ、作業療法士という職業のすばらしさを再確認できました。



第34回 全体研修会

テーマ：「多職種連携で認知症のある人を支援する」
～その人らしく住み慣れた地域で暮らせるように～



研修風景

- 開催日時：平成28年8月28日(日) 10:30～15:10
- 開催場所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ アイネス大会議室
- 講演：「大分市通所型二次予防事業(元気はつらつ教室)における認知症支援」(90分)
講師：長田 英一郎 氏(株式会社ライフリー)
- シンポジウム：「作業療法士が取り組むべき認知症支援とは」
コーディネーター：真田 康孝(南山園)
シンポジスト：篠原 美穂(山香病院)
浅野なるみ(別府リハビリテーションセンター)
甲斐 公則(国東市民病院)
- 参加者数：61名(会員58名、他職種1名(PT)、学生2名)

午前の講演では、株式会社ライフリーの長田英一郎氏をお招きして、大分市通所型二次予防事業(元気はつらつ教室)^{*1}の事業目的や、教室での実施内容、特に認知症支援についてご講演いただきました。また、事例をふまえた食生活・生活習慣病への取り組みについてのお話もあり、認知症の有無に関わらず地域と連携を持ち、他職種と様々な角度から生活行為への支援を行うことが作業療法士としての役割であることを学びました。

午後からのシンポジウムでは、県内4施設の会員から実際に地域で支援を行っている現場での考え方、今後の展望などを聞くことができ、非常に有意義な時間となりました。

今後、作業療法士には益々、様々な形で地域への貢献が求められていきます。本研修で学んだことを今後の臨床の場で活かしつつ、地域での生活支援に貢献できる研修を開催できるようにしていきます。

※ 1：大分市通所型二次予防事業(元気はつらつ教室)

生活機能が低下している要介護状態になるおそれの高い高齢者に対して、日常生活の活動性を高めて、生活行為の維持・改善を目指した大分市の取り組み。



シンポジスト 浅野氏



活発な意見交換をするシンポジスト

「我逢人」～人との出逢いにワクワクしていますか？～



國政 和子

(秋吉病院)

私は今、日田市で障害者自発的活動支援事業[※]に関わり、何らかの障がいを持った方々と一緒にサロンや施設見学、また趣味活動をしています。活動して2年、障がいを持った方々の中には「やればできる」「やってみよう」という生活意欲が強まり、次のステップへ踏み出している方もいます。日田市における自立した生活とその支援のシステム構築を、障がいを持った方々と協働で作るために、来年度の事業計画案を現在は作成中です。いろいろ大変なこともありますが、芽が出る前のうずうずした感じで、ワクワクしています。

この活動において、もっとも重要だったものが、「人との出逢い」でした。日田市内外に住む障がいを持った方々やその家族、その方たちを支援する専門職、行政職員、日田のまちづくりを考える市民の方・・・本当にいろんな方と出逢い、いろんなお話をしました。この出逢いが、またさらなる出逢いを呼び、作業療法士の大先輩のみなさんともつながることができました。どの方も、ご苦労されながらも懸命に生活をしたり、仕事をされておられ、その姿に学ばせていただくことがたくさんあります。

「人と出逢うことから始まる」

会員の皆さんは、知らない人たちとの研修会や活動などを避けていませんか？それは、もったいないですよ。人と会わずして、自分だけで考えて、自分だけで行動していたのでは見つからないことがあります。これは、今回の活動で、葉山靖明さんに出逢ったことで実感しました。人に出逢ってこそその作業療法だなあと。

「人との出逢いにワクワクしていますか？」

チープなキャッチコピーのようですが、日田での活動と私の作業療法にはとても大事な要素です。皆さんも、日田の地で、新たな出逢いを体験しませんか？障がいを持った方々と一体となつての活動はいつでも受け付けておりますので、ご参加お待ちしております。

※障害者自発的活動支援事業

障害者総合支援法に基づき各市町村が実施する事業の一つであり、障がいを持った方々が、自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、障がい者や、そのご家族、地域の住民の方々による地域における自発的な取り組みを支援すること。

作業療法一日体験

期 間：平成28年7月1日(金)～8月31日(水)
場 所：会員所属施設 (70施設)
内 容：作業療法の体験や見学を通じ理解を深める
参加者：県内の高校生(205名)

作業療法実践セミナーⅠ

日 時：平成28年7月22日(金) 19:00～21:00
場 所：ホルトホール大分
テーマ：発達障がい児の就学支援とは～
特別支援教育の現場へ踏み出す一歩～
内 容：発達障がいに対する社会生活場面でのOTの関わり
講 師：浅倉 恵子(どんぐりの杜クリニック)
兒玉 敬祐(恵の聖母の家)
参加者：38名

現職者共通研修Ⅰ

日 時：平成28年7月28日(木) 19:45～21:15
場 所：杵築市立山香病院
講 師：篠原 美穂(杵築市立山香病院)
参加者：16名

現職者共通研修Ⅱ

日 時：平成28年7月31日(日) 9:30～16:40
場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ アイネス
内 容：① 作業療法生涯教育概論
講 師：洲上 祐亮(教育研修部長/大分豊寿苑)
② 職業倫理
講 師：浅倉 秀剛(大分中村病院)
③ 作業療法の可能性
講 師：荒木 良夫(藤華医療技術専門学校)
④ 作業療法における協業・後輩育成
講 師：山崎 翔太(明野中央病院)
参加者：31名

生活行為マネジメント事例検討会

日 時：平成28年8月6日(土) 13:30～16:30
場 所：大分県作業療法協会ビル
内 容：事例報告、好事例報告
講 師：梅木 大輔(湯布院病院)
参加者：4名

第3回スポーツ大会

日 時：平成28年8月6日(土) 13:00～17:00
場 所：太陽の家
内 容：レクリエーションボッチャ、卓球バレー
参加者：28名

作業療法フェスタ2016

日 時：平成28年8月21日(日) 10:00～15:00
場 所：イオンパークプレイス大分店
内 容：作業療法クイズ、認知症予防体操、心と体の相談窓口
福祉用具展示、パンフレット、アメニティ配布
来場者：600名

第34回 全体研修会

日 時：平成28年8月28日(日) 10:30～15:10
場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ アイネス
テーマ：「多職種連携で認知症のある人を支援する」
～その人らしく住み慣れた地域で暮らせるように～

講 演：「大分市通所型二次予防事業(元気はつらつ教室)における
認知症支援」

講 師：長田 英一郎(株式会社ライフリー)
シンポジウム：「作業療法士が取り組むべき認知症支援とは」
コーディネーター：真田 康孝(南山園)
シンポジスト：篠原 美穂(山香病院)
浅野なるみ(別府リハビリテーションセンター)
甲斐 公則(国東市民病院)

参加者：61名

平成28年度 地域ケア会議新規助言者研修会

日 時：平成28年9月5日(月) 13:30～21:30
場 所：大分県作業療法協会ビル
内 容：① 地域ケア介護において作業療法士に求められるもの
講 師：佐藤 暁(常務理事/井野辺病院)
② 2事例を通じた個人ワーク及びディスカッション
参加者：8名

現職者共通研修Ⅲ

日 時：平成28年9月25日(日) 9:30～12:40
場 所：大分コンパルホール
内 容：① 保健・医療・福祉・地域支援
講 師：國政 和子(秋吉病院)
② 日本および世界の作業療法の動向
講 師：大田 繁(湯布院病院)
参加者：15名

「作業療法の日」リハビリテーション相談窓口

日 時：平成28年9月25日(日) 9:30～11:30
場 所：大分駅前
内 容：リハビリテーション相談、パンフレット、アメニティ配布

現職者選択研修〈老年期領域〉

日 時：平成28年10月2日(日) 9:30～16:40
場 所：大分岡病院
内 容：① 老年期の基礎知識
講 師：山本 勝一(常務理事/介護老人保健施設オアシス)
② 老年期の精神障害と作業療法
講 師：工藤 友治(大分下郡病院)
③ 地域を支える通所・訪問リハビリテーション
講 師：谷口 理恵(大分豊寿苑)
④ 介護予防・日常生活支援総合事業について
講 師：三雲 透(学術研修部長/デイサービス楽)
参加者：23名

リレーフォーライフin大分

日 時：平成28年10月8日(土)～9日(日)
場 所：大分スポーツ公園
内 容：チャリティー参加
参加者：75名

現職者選択研修〈生活行為向上マネジメント基礎研修〉

日 時：平成28年10月30日(日) 9:30～16:40
場 所：はさま未来館
内 容：事例報告と事例検討
講 師：都甲 幹太(介護老人保健施設あやめの里)
佐藤 友美
(日本OT協会 生活行為向上マネジメントプロジェクト推進委員/湯布院病院)
参加者：31名

センターまつり&元気フェア2016

日 時：平成28年11月6日(日) 10:00~15:00
場 所：大分県社会福祉介護研修センター
内 容：プラ板作製、作業療法クイズ、リハビリテーション相談窓口

大分大学開放イベント2016

日 時：平成28年11月6日(日) 9:00~14:00
場 所：大分大学 豊野原キャンパス
内 容：フラッグ作製、作業療法の説明

作業療法ミニフェスタin春日まつり

日 時：平成28年11月13日(日) 8:30~14:00
場 所：王子中学校
内 容：フラッグ作製、風船配布

作業療法ミニフェスタinふるさとまつり2016

日 時：平成28年11月13日(日) 10:00~15:30
場 所：大原総合体育館(豊後大野市三重町)
内 容：うちわ作製、作業療法クイズ

作業療法実践セミナーⅡ

日 時：平成28年11月20日(日) 10:00~13:00
場 所：大分リハビリテーション専門学校
内 容：精神機能障害をもつ方への地域定着に向けた支援
~個別性の高い実践とその成果を示す~
講 師：津田 祥子(福岡市Q-ACT作業療法士)
参加者：30名

ジョブカフェおおいた 職業講話

日 時：平成28年11月21日(月) 12:30~15:30
場 所：大分県立別府翔青高等学校
内 容：作業療法はどんな仕事か？
講 師：野田 絵里香(コスモス病院)
岡村 直樹(新別府病院)

現職者共通研修Ⅴ

日 時：平成28年11月27日(日) 9:30~12:40
場 所：大分県作業療法協会ビル
内 容：①「課題指向型訓練を行い箸操作の円滑性向上がみられた一症例」
講 師：久垣 奈美(佐藤第一病院)
②「生活状況を把握し、早期より実践的な動作介入を行うことで家事・職業動作の再獲得が図れた症例」
講 師：萩 彩乃(佐藤第一病院)
③「地域の人を支えたい～地域活動への復帰を支援する～」
講 師：前田 麻衣(諏訪の杜病院)
④「料理を通じて、QOL向上に向けて第一歩を踏み出した一症例」
講 師：高畠 悠太(佐伯中央病院)

参加者：18名

管理運営に関する研修会

日 時：平成28年12月11日(日) 9:30~14:40
場 所：ホルトホール大分
内 容：① 作業療法士の職業倫理
講 師：衛藤 博文(理事/元大分県議会 事務局長)
② やってみようRCA
講 師：日隈 武治(副会長/大分リハビリテーション専門学校)

参加者：14名

紹介

＊作業療法士の仕事を知っていただきたくて…＊

『おしごとガイド 作業療法士』 ～人を笑顔にするリハビリテーション～ を作成しました。

当協会は、小学生や中学生を対象とした作業療法および作業療法士の啓発・普及活動として、『おしごとガイド 作業療法士～人を笑顔にするリハビリテーション～』を作成しました。

作業療法士の仕事を、まんがを使ってわかりやすく紹介した本誌の「まんが作業療法物語」をもとに作成したガイドブックです。事故や病気によって障害を持った人々が、再び活き活きとした人生が送れるよう仕事・遊びなど日常生活での作業(活動)を通して心と体を元気にしていくお話です。

大分県内の小学校269校、中学校126校に寄贈させていただき、学校図書館への配置をお願いしました。小学生、中学生のみなさんは、ぜひ図書館で手に取って読んでみてください。



- A4版/70ページ
- オールカラー





居宅介護支援事業所勤務

作藤 暁

現在は「直接的(生活課題の改善)に生活を支援する作業療法士」と間接的(マネジメント)に生活を支援する介護支援専門員(ケアマネジャー)の二足のわらじで働いています。作業療法士の基礎資格で介護支援専門員(ケアマネジャー)就任の方は多くはありません。しかし、作業療法士の強みを最大限活かすことで、介護支援専門員(ケアマネジャー)の業務を行う上で強みになっています。直接的・間接的の両方向から生活を支援できることは大きな可能性を秘めています。生活を支援するということは答えがありません。なぜなら一人ひとりの生活が違ふからです。よって可能性は無尽大です。対象者の「その人らしい生活」を達成できるように直接的・間接的の支援の日々仕事に取り組んでいます。

可能性は無尽大



介護老人保健施設勤務

佐藤 友美

年をとっても、体に不自由があっても、認知症であっても、本当に「したいこと」があり夢中になると、活力に満ち笑顔があふれることを何度も経験しました。私は、対象者とその家族の暮らしの困りごとを解決することと共に、対象者が心から「したい」と望むことを丁寧に聞き、あらゆる方法を考え、一緒に実現に向けて取り組むことを信条としています。

「したいこと」を夢中になつて行える喜びのために



脳卒中センター勤務

細川 祐司

私は現在、回復期リハビリテーション病棟にて脳卒中を患った方々に対して作業療法を行っています。患者さんは片麻痺・高次脳機能障害によって身の回りのことがしにくくなり、病気によって様々な不安を抱えたりしながら日々リハビリに励んでいます。その人らしい人生が送れることを常に考え、患者さん一人ひとりに合わせた支援を他職種と協力して取り組んでいます。

その人らしい人生を常に考えて



リハビリテーション病院勤務

浅倉 恵子

「幸福とは」…人に①愛されること、②褒められること、③役に立つこと、④必要とされることだそう。人は、仕事=作業をすることで幸福を感じます。それは、単に競争することだけでなく家事、孫の世話、畑仕事、庭の手入れ、地域の集いなどいろいろな作業が存在します。私たち作業療法士は、年齢、疾患、障がい関係なく、作業を再獲得したり、新たな作業の場を発見するために、対象の方と協力してリハビリテーションに励んでいます。

幸福とは…

作業療法士の想い



療育センター勤務

越智 絵里子

私は、主に脳性麻痺や自閉スペクトラム症、注意欠陥・多動症などの発達障がいのお子さんに関わっています。楽しめる遊びを提供しながら、運動や手先の練習、着替えやお浴などの日常生活動作、学校の先生に対し、見への間わり方を助言したり、環境の工夫について一緒に考えていきます。お子さんたちが「できた」という達成感を得ることで自信を持ち、生き生きと過ごせるようになることを目指しています。

「出来た」という達成感を得るために
お子さんたちが



訪問看護ステーション勤務

野上 可奈子

私は現在、訪問看護ステーションで訪問リハビリテーションを行っています。対象者は主に神経難病や癌の終末期の方々が多く、自宅に訪問リハビリテーションを行っています。対象者の多くは医療的な管理が必要で、他職種と密に連携をとりながら、在宅生活を支援していきます。住み慣れた地域で、自分らしく安心・安全に暮らせるよう、日々対象者の方々と一緒に過ごしています。

連携をとりながら
在宅支援を
他職種と



作業療法士養成校勤務

鳥越 克志

私は作業療法を学んでいる学生にはいつもこのように伝えています。ただ「やりがいがある」というだけではありません。そこには大きな責任も伴います。対象者の人生に関わるということは、それができるだけの知識・技術・経験、そして「心」が必要です。私も昨年までは病院で対象者と関わっていましたが、今は作業療法士を育成する教員として、知識・技術の習得を促すとともに、様々な経験を通して豊かな「心」を育むことを目標に学生と関わっています。

作業療法士は対象者の「人生」に関わるやりがいのある仕事です

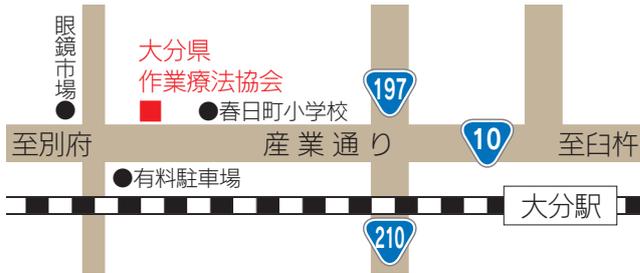
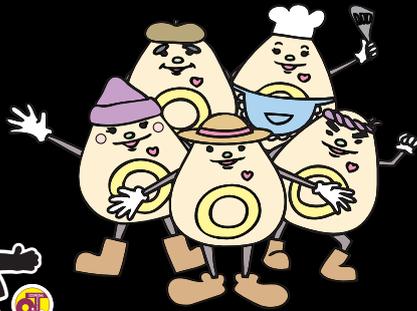


精神科病院勤務

梅田 大樹

私は現在、精神科病院に勤務し、入院患者さんを対象に作業療法を行っています。こちらの病室を持つ患者さんの多くにマイナス思考による不安や自信の低下が見られ、それらがまたマイナス思考を増強させるという悪循環を起しています。適切な作業活動や人との関わり場の提供し、寄り添いながら「出来ること」や「他者の役にたつていくこと」を伝えるなど、患者さんにとってより良い体験となるよう支援を行い、主体的な生活の獲得を目指しています。

生活の獲得を目指して
主体的な



リハビリテーションのことや、作業療法のことでも分からなかったり、お困りのことがありましたら、右記までご連絡ください。

公益社団法人 大分県作業療法協会
〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2 大分県作業療法協会ビル
TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663
http://www.oita-ot.com

●本誌に掲載している写真については、すべてご本人・施設の了承を得ています。